

第6章 水道事業における課題

6.1 課題整理にあたっての3つの視点

「新水道ビジョン（2013（平成25）年3月）」では、日本の総人口の減少や大規模災害の経験など、近年の水道を取り巻く環境が大きく変化していることに重点を置き、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの柱を理想像として、水道事業者が取り組むべき方向性を示しています。

本ビジョンにおいても、これらの視点に基づき現状と将来見通しから課題を整理しました。



課題整理にあたっての3つの視点

6.2 本市水道事業における課題

以上の現状分析、今後の見通し及び旧水道ビジョンで設定した施策の進捗状況の結果から、本市水道事業の課題を整理すると以下ようになります。

本市では、人口減少による将来的な料金収入の減少が見込まれる中、老朽化した施設の更新や耐震化対策に多額の施設整備費を必要とするため、厳しい財政状況が続くものと考えられます。

また、気候変動や頻発化・激甚化する災害も多様化しており、これらによってもたらされる水質や施設への影響も大きいと考えられます。

水道事業に課せられた責務を全うするには、こうした状況にあらゆる面から対策を講じることが望ましい状況ではありますが、資金面や限られた職員で対応するためには優先順位を考慮した効果的で効率的な対策を選択する必要があります。

本市水道事業における主要課題

視点	主要課題
持続	給水区域内の水道未加入者における理解
	水道事業に係る技術の継承
	給水人口の減少に伴う将来的な給水収益の減少
	多額の施設整備費用の発生
	物価高騰に伴う維持管理費の上昇
	健全経営のための長期的な資金確保
安全	集中豪雨等による高濁度の発生
	クリプトスポリジウム等による水源汚染の可能性
	気温上昇による藻類の発生に伴うカビ臭障害
強靱	施設の老朽化と耐震化
	管路更新率の低迷
	市街地の緊急貯水槽等の給水拠点の不足
	多様化する災害リスク